

図書館おすすめブックリスト

2018年9月発行

編集・発行 砺波市立図書館



ココロふるえる本との出会いで ^{ハート}♥ フル充電!!

No.6 高学年向け



『ぼくたち負け組クラブ』

アンドリュー・クレメンツ/著 田中奈津子/訳
講談社

本が大好きなアレックは、授業中にも隠れて読んで校長先生に怒られる始末。6年生になって読書クラブを作るも、誰も入りたがらないよう、つけた名前は「負け組クラブ」！ところが次第にメンバーが増えてきて…？

気になる女の子や、「本の虫」とからかってくる同級生。空想の世界と違い、現実はいまどくさいことばかり。静かに本を読んでいたかったアレックも、ついにアクションを起こします！巻末にアレックおすすめのブックリストつき。



『髪が つながる物語』

別司芳子/著 文研出版

病気や治療のために使われる「医療用ウィッグ」。それを作るためには、長い髪を寄付する「ヘアドネーション」が必要になります。この本では、その活動をリードするNPO「JHD&C (ジャーダック)」の取り組みや、髪を寄付する人の思い、ウィッグを望む子ども達の状況を知ることができます。寄付する為に髪を長く伸ばした、サッカー少年の仁くんの話にも胸が熱くなるノンフィクションです。



『サナギのひみつ』

三輪一雄/著 大谷剛/監修 ポプラ社

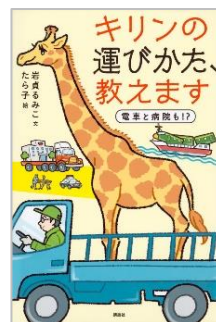
チョウやカブトムシなど「サナギ」になる昆虫は、サナギの前と後で見た目が大きく変わります。サナギの中はどうなっているの？ どうしてサナギになるの？ 答えを探しに、生き物が誕生した5億4000万年前に戻ってみましょう。

何度もおとずれたピンチに昆虫たちはどうやって立ち向かってきたのでしょうか。身近にいる昆虫がもっとかっこよく見えてきます。



『どうちゃんとユーレイババちゃん』
藤澤ともち/作 佐藤真紀子/絵 講談社

小学校6年生の優也の家は少し変わっています。生まれた時から一緒に暮らしている仲良しの“どうちゃん”はお父さんではないし、いつも見守ってくれる“ババちゃん”は、優也にだけ見えるユーレイになったおばあちゃんなのです。“どうちゃん”の恋と優也の友情、そして家族の絆。周りの人を大切にしようと思わせてくれる、温かい家族の物語です。



『キリンの運びかた、教えます』
岩貞るみこ/文 たら子/絵 講談社

自分のまわりにあるものは、誰かが運んでくれたもの。ふだん目にするものがない「運ぶ」プロたちの舞台裏をのぞいてみましょう。キリンや電車、子ども病院の引っ越しなど、大きなものを運ぶときには、何年も前から緻密な計画を立て、大勢の人達が見ごとなチームワークで取り組んでいく必要があります。子どもはもちろん、大人も楽しめる内容になっていますよ。



『たのしいローマ数字』
デビッド・A・アドラー/文 エドワード・ミラー/絵 千葉茂樹/訳 光村教育図書

ローマ数字って使ったことありますか？みんながいつも使っている「1, 5, 10」はアラビア数字。ローマ数字だと「I, V, X」になります。ローマ数字は時計や本など身近なものにも使われています。この本にはローマ数字の作り方が、たのしく書かれています。「90」は「XC」、「151」は「CL I」、では「999」は？

さあ、ローマ数字で遊んでみよう！



『さよなら、ぼくらの千代商店』
中山聖子/作 岩崎書店

体の不自由な母を持つ翔也は、「かわいそう」という言葉にイライラしてしまいます。突然現れた男の子に導かれ、不思議なバスに乗ってたどり着いたのは、小さい頃通った千代商店。懐かしい千代ばあちゃんと話すうちに、もやもやした気持ちが晴れていき…。

「どこかに行きたい」という気持ちを抱えた4人の子どものお話です。



『波うちぎわのシアン』
斉藤倫/著 まめふく/画 偕成社

燃える舟から助け出された赤ん坊シアンは、島に一軒だけある診療所のフジ先生のところまで育てられました。握ったまま開かないシアン左手からは、波の音が聞こえてきます。その音を聞くとお母さんのおなかの中にいたときのことを思い出すと評判になるのですが…。過去の記憶が未来への勇気になる、そんな優しいお話です。



『ロひげが世界をすくう?!』
ザラ・ミヒャエラ・オルロフスキー/作 ミヒャエル・ローハー/絵 若松宣/訳 岩波書店

大好きなおばあちゃんが死んで、落ち込むおじいちゃんに元気を取り戻させたのは「世界ひげ大会」の広告?! 家族みんなが反対する中、孫のヨーヨーだけはおじいちゃんをひげのチャンピオンにしようと毎日手入れのアシスタントをします。完成したおじいちゃん口のひげとは…? お話も絵もユーモアたっぷりで一気読み間違いなし! 最初から最後まで笑顔がぎゅっと詰まっています。